

令和 6 年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立桐蔭高等学校

校長名：川 蔦 秀 則

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

- ・自ら人生を切り拓く人を育てる学校
- ・自己の在り方生き方について主体的に考え、高いレベルでの自己実現に向け、幅広い教養と課題解決能力を身につけた生徒
- ・「文武両道」の実践を通して自主性と人間力を高め、トップリーダーとして社会に貢献できる力を身につけた生徒

学校評価の公表方法

保護者に対して自己評価及び学校関係者評価の結果を知らせるとともに、本校ホームページにおいても広く公表する。

現状・進捗度

A	十分に達成している。（80%以上）
B	概ね達成している。（60%以上）
C	あまり十分でない。（40%以上）
D	不十分である。（40%未満）

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組				評価（2月10日現在）		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	高い進路目標を実現させるための組織的かつ系統的な取組の充実及びキャリア教育充実深化に向けた具体的方策の構築	B	「桐蔭ゼミナール」での探究活動において、和歌山大学などの外部機関との連携により実施する。	・探究テーマに対する調べ学習以外の探究活動が行われたか。	A	和歌山大学の学生ボランティアのべ13名が計6時間、高1の探究テーマ設定の活動に入ってくれた。	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の学生ボランティアの活動を足がかりに和歌山大学の研究室との連携を模索していき、より深い探究活動が出来るようにしていく。 ・「系」については、「系」と「志望校」の乖離が見られるため、「系」についての検証や、方向性について共有する。必要に応じて、内容についての変更を検討する。
			学年集会や面談時の資料、進路だより、LHRによる情報提供及び生徒の高い志望をあきらめさせない支援を行う。	・難関大学出願者数120名 ・進路アセンブリーの実施 ・進路だよりの発行	B	・3年進級時の難関大志望者の人数は多いが、出願者数は少ない。 ・進路アセンブリー、保護者説明会等で、入試制度等について説明を行った。	
			FD宣言のもと中高全教員が研究授業・定期考査問題作成により授業力を付け「系」の求めるレベルの授業を実施する。「系」選択が生徒自身の意思決定でなされるよう情報を提供する	・「系」選択が生徒自身の意思決定でなされ、求める授業内容が実施できたか。	B	「系」選択に関して、「系」と実際の「志望校」に乖離が見られる。	
2	主体的な学習姿勢の育成につながる教員の更なる指導力向上	B	新学習指導要領で求められている主体的・対話的で深い学びの実現のため、授業改善を行う。	・公開授業や研究授業を年1回行う。 ・授業アンケートを実施し授業改善の状況を確認する。	B	・研究授業の必要性を上手く発信できず実施率は低下した。教科で検討する仕組みを作る。 ・ICT等の活用は増加しているので、今後授業参観等で、実践事例を共有していきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業実施時期を教科、学年別に1回目として原則1学期に設定する。6月までに実施時期を報告とする。また、授業参観回数についても具体的に設定する（3回程度）。 ・課題を与えるのではなく、自ら学習に取り組めるような仕掛けについて研究・協議を進める。 ・教科間での情報共有は一定進んでいるが、評価についての課題は残っている。観点別評価について教科および分掌での研究を進める。
			授業を通して家庭学習の必要性を認識させる。	・授業アンケートを実施し、家庭学習の定着状況を確認する。	B	・学校生活のリズムが確立されるに従い、学習時間が減少する傾向にある。 ・主体的に学習に取り組む姿勢を育成する仕掛けが十分でなかった。	
			学年会、教科会での情報交換、協議の実施。定期考査の分析および対策。	・考査問題が生徒評価に適正なものであるか。 ・家庭学習用課題や小テストが適正であるか。	B	・全学年が観点別評価になり、教科間での情報共有や授業内容についての共有は進んでいる。評価と模試の偏差値の相関が強く見られなかった。	
3	生徒の自主的・自律的な生活習慣の確立と生徒支援の充実及び生徒の主体的な活動を支援する取組の充実	B	自己責任の遅刻を5回以上繰り返す生徒への指導や、日常的な身だしなみ指導。	・遅刻者数の増減と個々の事情の把握ができたか。 ・生徒が自主的・自発的に行動し、自己管理能力を身につけることができたか。	B	年間を通して遅刻者の把握・声掛けを行い、学校生活に対する支援を行った。本年度からスーツタイプの制服導入により、新たな身だしなみの決まりを策定して指導を行った。	<ul style="list-style-type: none"> ・校則や決まりについて、生徒との対話を増やして、生徒が自ら校則などについて考えるよう促したい。本年度からスーツタイプの制服が導入され、生徒会が中心となって対話を増やすことができた。今後も継続したい。 ・生徒会活動に関わる生徒を増やし、生徒による主体的な活動を促す。 ・部室等部活動の環境を整える。
			教育相談体制の充実。生徒情報の共有と把握による生徒理解、並びに具体的な手立ての共有。	・カウンセリングやケース会議が適切に実施され、具体的な情報共有ができたか。	B	生徒一人一人に対して適切な教育支援を行うために、カウンセリングやケース会議を実施し、情報共有を行うことができた。	
			生徒会を活性化し、生徒の主体的な行事運営を促す。効果的なLHR計画構築する。部活動を支援する。	・生徒会活動や行事活動、LHRの内容と時間が適正か。 ・部活動満足度や退部者数が適正か。	B	文化祭において、生徒会を主体として、金券制導入や外ステージ設置を実施した。部室整理を進めた。	

学校関係者評価（3月18日実施）

- ・グローバル化が進行する社会情勢に適応するためのキャリア教育を充実させており、学力の向上のみならず、生徒個々の特性に応じた社会性を育む教育が実践されている。また、指導者側の先生方は、子供達の育成のためのより良い教育の在り方を常に探求されるとともに、第三者からの評価を受けることによる適時の精査も行われている。
- ・県内の県立高校においては、それぞれの魅力や特徴を活かすことにより立派な教育を行っているが、特に桐蔭高等学校はその伝統の中で培われてきた児童生徒や保護者の憧れる魅力のある学校であると感じている。その伝統の上に、時代に適応した新しい要素も加えながら更に発展していただきたい。
- ・桐蔭独自（リーダー塾、桐蔭総合大学等）の取組は大いに評価できる。
- ・施設（トイレ・エアコン）も順次更新されありがたい。
- ・伝統を重んじすぎ、他校と比較して没個性化は否めない。新たな取組に期待したい。
- ・体育祭の実施時期の検討が必要。
- ・インターネット時代においていかれている？ホームページも最低限の最新版管理が必要。ICTの得意な生徒達と協力して進めてみてはどうか。
- ・今の時代は保護者向けの案内も紙ではなくてメールでの案内が基本。もっとライデンメールの積極的活用を。
- ・毎年、生徒達のために色々なことを取り入れて挑戦している。ただ、これから先、少子化、私立無償化などで、定員割れ（今年もですが）と厳しい状況になっていくと思われるため、もっと魅力ある学校になるよう期待する。
- ・教師の先生方も工夫をした授業をされておられ、また、生徒もクラブ活動を熱心に行い、文武両道が体現されている。
- ・キャリア教育の充実度も素晴らしい。
- ・今後、高校教育無償化が軌道に乗ると、公立高校の入学希望者のレベルが下がる恐れがある。和歌山市の普通高校では、各校がスクールポリシーを明確にし、例えば、桐蔭、向陽、星林の間で、特色（「売り」）を打ち出し、スケールメリットを生かして私立校に対抗すべきであると考えます。